

2023年10月28日

「伝え方」について

9月下旬 飯舘 C班

JINGAOYI 豊田花菜 早川大雅 松本和佳奈 野田和貴



目次

- 1,2日目の議論について
- 3,4日目の議論について
- 5日目の議論について
- まとめ

01

1, 2日目の議論について

福島的第一印象 / 伝え方のジレンマ

松本和佳奈

1 日目の議論について

福島 の 第一 印象

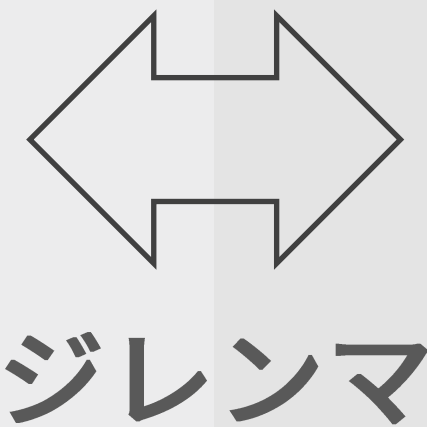
- 放射線濃度表示が立っている
- 時間が止まっていて、人の気配がなかった



2日目の議論について

伝え方のジレンマ

- 体験したままを伝えたい
- 感じたことを伝えたい



- 福島を分かったつもりにならない
- 福島の人々の思いやデータを大事に



02

3, 4日目の議論について

伝え方の工夫 / 多方面からのアプローチ

豊田花菜

伝え方の工夫

歴史的に重要な「建造物」

できるだけ元の状態に近いものとして保存・継承すべき場所

地域の人々の「拠り所」

以前と変わったところがあったとしても大切にされるべき場所

場所を訪れることの効果

音響、香り、体験型展示などを活用して伝え方を工夫できる

多方面からのアプローチ

山津見神社の見学

つながっぺでの交流

実体験・感情

植物、土壌の採取

測定・計算

データ・理論

**組み合わせることで
より良いアプローチ**

03

五日目からの発想

外国人の目線で見ると

キンコウヨク

五日目の内容

時間順により

福島第一原発

- ・ 廃炉記念博物館
- ・ 1,2,3,4号機の現場見学

中間貯蔵施設

- ・ 工事の進む状況
- ・ 埋めるまでに必要な流れ

得られた結果

- ・ 廃炉工程により、災害の拡大はとめ止められた。
- ・ 処理水工程により、環境への影響は納得できる。

自分の考えを基づく発想

責任者

客観的に、東電会社はある程度責任ある。
災害防御をこれから心にかける

宣伝活動

多言語対応と専門用語の簡易化の努力も必要。

未来のために

国際社会によりいいイメージを作れば、福島復興が加速する。

04

1 ～ 5 日目までのまとめ

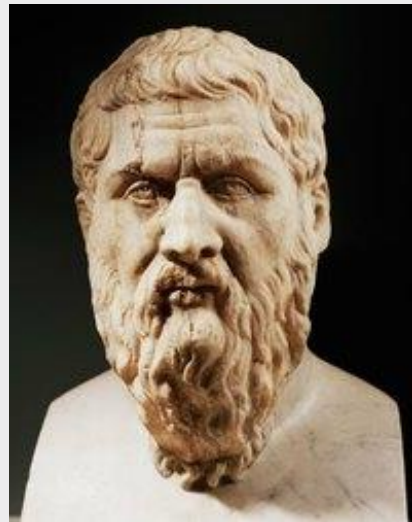
早川大雅

イベントの開催によって半強制的 に周囲を巻き込む

不特定多数の目に触れる回数を増やすこと
で、行動を起こしてもらうきっかけを提供
できる

提案の前提としての思想

ゴルギアスの懐疑主義的思想



何かしらの存在を他人に完全に伝えて理解を一致させることはできない

→伝達という点では不十分に終わってしまう

自分たちの目で見えた福島は授業だけでは見えない部分を教えてくれた

百聞は一見に如かず

興味嗜好に委ねて自発的な学習を促し、あわよくば実際の福島を現地で見てもらう

→伝達効率100%を目指す

様々な角度から見たイベントを用意することで伝達効率が高くなる層が拡大することを見込める

THANK YOU!

ありがとうございました!